

あおえネットワーク

岡山赤十字病院 患者サポートセンター



岡山日赤HP



研修会・カンファレンスのご案内

※ポスター同封

※会場参加の際は、感染症予防対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

日時・会場	名称	演題・演者等
令和7年7月2日(水) 19:00~19:20 岡山赤十字病院 南館1階 研修室 (ハイブリッド開催)	第33回 地域連携パス 連絡会	【脳卒中パスについて】 岡山赤十字病院 脳卒中科部長 岩永 健 【大腿骨頸部骨折パスについて】 岡山赤十字病院 第二整形外科副部長 (兼)リハビリテーション科副部長 上甲 良二
令和7年7月2日(水) 19:30~21:00 岡山赤十字病院 南館1階 研修室 (ハイブリッド開催)	第94回 岡山赤十字病院 病診連携研修会	テーマ『ここでしか聞けない心臓・血管の話』 講演Ⅰ『ちょっと厄介!?でも大丈夫~感染性心内膜炎~』 岡山赤十字病院 心臓血管外科部長 加藤 源太郎 講演Ⅱ『見逃さない!下肢閉塞性動脈硬化症~診るべき足のサイン~』 岡山赤十字病院 循環器内科副部長 (兼)心血管治療部門長 柚木 佳 講演Ⅲ『睡眠薬と循環器』 岡山赤十字病院 副院長(兼)薬剤部長 森 英樹 《生涯教育カリキュラム(1.5単位):42胸痛(0.5) 62歩行障害(0.5) 10チーム医療(0.5)》

地域医療連携課顧問のご挨拶

名誉院長(兼)地域医療連携課顧問 辻 尚志



本年3月で院長職を退職し、4月より地域医療連携課顧問を拝命しました。これまでに積みかさねてきた経験をフルに活用し、地域医療連携をさらに深め、そしてスムーズな連携が出来るよう、職員や地域の皆さんのお役に立ちたいと考えています。また病院のアンバサダーとして赤十字ブランドの社会的な価値を高めるべく頑張ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

紹介患者予約申込書の内容変更について

日頃より紹介患者予約申込書をご利用いただき、ありがとうございます。
診療情報提供書の取り扱いに関する補足事項を一部修正いたしました。紹介目的・病状詳記をご記入いただいた場合も、可能な限り診療情報提供書をFAXいただき、原本は必ず当日ご持参くださいますようお願いいたします。
*新様式を同封しております

がんサロン開催のお知らせ

日時: 6月10日(火) 10:00~11:00

場所: 岡山赤十字病院 南館2階 会議室1

対象: がん患者さんとそのご家族
(入院中、通院中の方どなたでも参加できます)

1. 『脱水、熱中症について』
講師: 赤十字健康生活支援講習指導員

2. 座談会
(内容は問いません)



ご要望・ご意見等ございましたら、「診療所の先生方の声」として地域医療連携課までお寄せください。

TEL/086-235-8555 FAX/086-235-8556 e-mail/renkei@okayama-med.jrc.or.jp

院内Topics ニュース&報告

第92回岡山赤十字病院病診連携研修会

第92回岡山赤十字病院病診連携研修会が、令和7年3月5日に当院およびオンラインで開催されました。テーマは「血液疾患領域における病診連携の現状」で、2つの講演が行われました。

【講演Ⅰ】では、当院 第二血液内科部長の新谷大悟先生が『当院の骨髄異形成症候群と急性骨髄性白血病の診療』をテーマに骨髄異形成症候群(MDS)や急性骨髄性白血病(AML)などについて講演されました。

【講演Ⅱ】では、当院 第一血液内科部長の藤井総一郎先生が『当院の悪性リンパ腫の診療』についてのテーマで、濾胞性リンパ腫、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)を中心に講演されました。

いずれも、疾患の種類あるいは患者さんにより、進行速度に大きな変化があり、その治療においては発見から治療に至るまで病診連携が必須であると感じられました。今回の講演がより良い治療を安心して治療を受けられる環境の構築の契機になればと期待しております。

ペインクリニック科 福島臣啓



救護班要員研修Ⅰ

私は昨年半ばより救護班員となり、今回初めて救護班の研修に参加しました。ひとまずこれを書いているときに、大規模事故や災害時の活動における原則であるCSCATTTについて改めて復習しました。TTTはTriage, Treatment, Transportで、いわゆる事故や災害時の医療救護活動というトリアージを行ったり治療を行ったりするドラマのような場面がまず頭に浮かびます。しかし、事故や災害にも様々なフェーズがあり、自分がどの段階で救護班員として参加することになるのかはわからないし、その時になにが求められるのかもフェーズによって異なります。そのようなことを講義や実際に参加された方のお話を聞いて実感しました。自分自身、実家が高知にあり、以前よりも南海トラフ地震の可能性が高まっている昨今で災害はまったく他人ごとではありません。研修では情報共有システムとしてEMISやJ-SPEEDの役割やその使い方を学習し、START法を用いたトリアージについても学びました。有事の際にはいつでも役に立てるように日ごろから備えておく必要があると実感しました。



呼吸器内科 田岡征高

今回の研修は、救護に従事するうえで必要とされる基礎的な知識や技術を習得する貴重な機会でした。

広域災害医療情報システム(EMIS)の操作を実践し、災害診療記録の記入を行い、その内容を災害診療記録・J-SPEEDというアプリへ入力による報告を実践しました。初めて使用しましたが、大変難しく、現場で使いこなすには何回も訓練が必要だと思いました。また、職種別研修の時間も設けていただきました。無線機を用いた通信では事例を用い、呼び出しから終話までを体験しました。無線機はスマートフォンなどの通話と違い、相手に正しく伝わっているのか、そもそも通信ができていないのかも不安になりました。



救護班として活動をするにあたって、情報の収集と伝達は必須です。混乱の起こりやすい実際の現場で、様々な情報ツールの特性を理解し、正しく効果的に取り扱えるよう準備しておく必要があると実感しました。

最後になりましたが、ご多忙の中研修の機会を設けていただきましたスタッフの皆様には感謝申し上げます。

医療社会事業課 西垣 流佑亜